

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320150

研究課題名(和文)モリソン時事資料群活用による新たな東アジア近現代史像の構築とその世界への発信

研究課題名(英文)Creation and dissemination of a new view on modern East Asian history based on utilization of the George Morrison Pamphlet Collection

研究代表者

新村 容子(NIIMURA, YOKO)

岡山大学・社会文化科学研究科h・教授

研究者番号：80362945

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000円、(間接経費) 4,230,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究は、東アジア近現代史の研究者を結集し、東洋文庫所蔵「モリソンパンフレット」(以下、パンフと略称する)の利用環境を整えるとともに、パンフを活用した研究を進めパンフの歴史資料としての可能性と魅力を広く世界に発信することを目的としている。

本共同研究のメンバーは、パンフの概要を紹介するカタログ作成を進めるとともに、各人の研究テーマに即してパンフを調査し、パンフの利用を通じていかなる新たな知見が獲得できるかという実験的な試みを進めてきた。その成果は各人が個別に発表した諸研究という形で公開され、さらに『モリソンパンフレットの世界』(東洋文庫論叢75、2012年3月)として公開された。

研究成果の概要(英文)：The objectives of this research project were twofold. The first was to establish an environment for more effectively utilizing the George Morrison Pamphlet Collection(hereinafter, GMPC), by creating a catalog with a summary of each item in the GMPC. Over the course of the project, we were able to summarize a total of 483 items in the GMPC.

The second was to promote research that utilizes items in the GMPC. Based on experimental efforts to explore items, we have discovered the value and the potential of the GMPC as an appealing and informative historical resources. As individuals, we have reported on the value of the GMPC in academic papers. In addition, we have jointly published a book on Modern East Asia, that contains several papers utilizing GMPC. The book has garnered worldwide attention. We have thus achieved the above-stated objectives of the research project by creating catalog of items in the GMPC and by publishing a book that demonstrates the value and potential of the GMPC.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：モリソンパンフレット モリソン文庫 東アジア近現代史

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、東洋文庫所蔵「モリソン文庫」の白眉と称されるモリソンパンフレット(以下、パンフレットと略称する)が、その歴史資料としての貴重性と有用性にもかかわらず十分に活用されていない現状への危機意識に立脚して企画された。

パンフレットの収集者である G.E.モリソンは、まずロンドンタイムズ特派員として、ついで民国政府大総統顧問として、19世紀末から20世紀初頭の中国に滞在し、中国をめぐる世界情勢に対する旺盛な関心にもとづき、パンフレットを収集している。モリソンが北京に滞在していた時期は、1900年義和団事変、1904-05年日露戦争、1912年中華民国の成立、朝鮮半島や南満州における日本の特権的地位の確立など、東アジア激動の時期に相当している。しかも、モリソンは激動の渦中において、報道関係者としてだけでなく、政府関係者としても工作をおこなっていた。

パンフレットは G.E.モリソンが激動の東アジア情勢を的確に把握するために、共時的・多極的な観点から収集したものであり、それらにはアジアの諸事件を瞬時に全世界とつなげてとらえるモリソンの鋭い時事的関心が貫いている。

G.E.モリソンはまた、宣教師、植民地、アヘンなど、19世紀以降の西洋社会とアジアとの関係性における極めて重要なテーマにも旺盛な関心を向けており、多数のパンフレットを収集している。パンフレットは東アジア近現代史研究に存分に活用されるべき資料的価値を有している。

2. 研究の目的

本研究課題は、第一に上述のごとく高い可能性をもちながら十分に活用されてこなかったパンフレットの総合的・有機的な利用環境をととのえること、第二に、G.E.モリソンの複眼的な視点によって発見され、収集されたパンフレットを東アジア近現代史研究に活用することを通じて、極東の諸問題へのグローバルな視線と社会の側から照らし出される微細な諸問題への視線とを結合させた新しい東アジア近現代史研究を実験的に遂行し、世界に発信すること、以上の二点を目的としている。

3. 研究の方法

本研究課題は、以上に述べた二点の研究目的をふまえ、二つの方法によって追求された。第一に、パンフレットを閲覧する研究者の利便性に資するために、(1)約6000件にのぼるパンフレットをすべてデジタル画像化し、公開にそなえたと

ともに、(2)書誌情報に加えて英文による概要紹介を附した詳細なカタログを作成すること。第二に、研究代表者、および研究分担者は各人の研究関心・研究テーマに即してパンフレットを収集し、パンフレットを活用した実験的研究をおこない、その作業を通じて、零細で雑多なパンフレットを他の資料群と有機的に関連させつつ研究を進める方法を具体的に提示すること。以上の二つの方法によって研究課題を遂行した。

4. 研究成果

本研究課題の研究成果について、上述の二つの研究方法それぞれについて記述する。

《第一の研究方法による研究成果》

パンフレットのデジタル画像化については、本研究の初年度に購入し、東洋文庫に設置したマイクロフィルムデジタル化機器(Microfilm Scan-Pro 2000)により、パンフレットのマイクロフィルム資料を迅速にスキャンしてデジタル画像化することが可能となった。この作業は本研究期間内に100%完了した。デジタル画像化の完了によって、データベースを本研究課題の研究代表者・分担者の利用に供することが可能となっただけでなく、英文概要の作成作業を効率的に進めることにも大いに役立っている。

英文概要の作成に関しては、本研究の研究費にて雇用した大学院生などにより作成作業が進められた。1件につき約30-80頁におよぶパンフレットの記述を平均200-300ワードの英文概要に圧縮し、ネイティブチェックを受ける作業は時間と労力を要する。本研究課題の研究期間内に483件の英文概要を完成させることができ、そのうち校閲を経てデータベースとして発信できる準備がととのったものは272件である。

英文概要の作成は、世界の研究者がパンフレットを検索し歴史資料として活用するに際し、極めて有効であろう。

《第二の研究方法による研究成果》

研究代表者および研究分担者は、3年間の研究期間をつうじて、各人の関心および研究テーマに即してパンフレットを検索・収集し、パンフレットを活用してどのような研究が可能なのかを具体的に示す実験的な試みを進めてきた。

具体的には、新村容子は、モリソンが大きな関心を抱いていたアヘン貿易反対運動に焦点をあててモリソンのアヘンに対する問題関心を掘り下げる試み、斯波義信はモリソンの鋭い感覚がとらえた20世紀初頭の中国像と近世中国の中国像との経済的な側面からの比較考

察、矢吹晋は朝川貫一と G.E.モリソンとの関わりを通じてモリソンの中国認識を検証する課題、貴志俊彦はパンフレットの画像資料を題材として外国人が見る近代中国像を検証する試み、本野英一は辛亥革命前後の上海共同租界の司法行政機構と中国との軋轢の意味を明らかにする課題、松重充浩はモリソンが収集した 20 世紀初頭中国東北地域関係資料を用いて同地域の政治的・軍事的構造を解明する課題、城山智子はモリソン関係文書に含まれる清末民国初期の通貨・金融に関する文献を調査し、当該時期の通貨・金融システムの構造と動態を明らかにする課題、岡本隆司は清朝と朝鮮・モンゴル・チベットなどの清朝の「属国」との外交関係を、パンフレットを利用して明らかにする課題、吉澤誠一郎は租界の土地問題および袁世凱による帝制導入問題についてパンフレットからアプローチする試み、村上衛は清代末期の華南沿海における社会・経済制度を明らかにする課題。

各人、以上の課題についてパンフレットを活用して研究を進めてきた。それらの研究成果は、ほぼ年二回のペースで開催された研究会の場で発表され、東アジア近現代史研究者間において共有されただけでなく、後に記すように、各人が個別に発表した雑誌論文、著書、学会報告などを通じて公開された。3 年間の研究期間に、研究代表者および研究分担者は東アジア近現代史研究を牽引する勝れた研究を多数発表してきた。それらの研究に使われたパンフレットは、東アジア近現代史研究においてパンフレットが豊かな可能性を持つことを具体的に提示している。

本研究課題の研究期間の初年度には論文集『モリソンパンフレットの世界』（東洋文庫論叢 75、2012 年）を刊行した。この論文集には、新村容子「王立アヘン委員会」とモリソンパンフレット、岡本隆司「もうひとつの『清韓論』ある新聞論説に関する一考察」、矢吹晋「朝川貫一と G.E.モリソン『日露衝突』から『日本の禍機』まで」、村上衛「零行洋と広州のあいだ——1830 年代カントンアヘン貿易の利権」、城山智子「近代中国幣制改革論の系譜 ジェレミア・W・ジェンクス(1856-1929)」、本野英一「在華外国人側より見た「大開會審公廨案(1905)」に関する一考察」、以上の 6 本の論文が収録されており、パンフレットを活用した本格的な研究として国内外の研究者の注目を浴びた。

以上に述べたように、本研究課題は 3 年間の研究期間中に大きな研究成果をあげることができたと言えるであろう。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

- (1)松重充浩、「『朝鮮及満州』に掲載された華北地域用語使用記事目録」、『近代中国研究彙報』、査読無、36号、2014、91-127頁
- (2)村上衛、「植民地と移民ネットワークの相克 - 辛亥革命期、厦門における英領北ボルネオ華工募集事業を中心に」、『東洋史研究』、査読有、72巻4号、2014、36-70頁
- (3)SHIROYAMA Tomoko, “ Institutions Governing Long -Distance Trade in Asia During the 18th and 19th Centuries :Example from the Gongguan Archives of Batavia”, *Modern Asian Studies Review*, 査読無,2013,pp.15-30
- (4)MOTONO Eiich, “ The Nationalist Government's Failure to establish a Trademark Protection System,1927-1931”,*Modern Asian Studies Review*,査読無,4巻,2013,pp.59-89
- (5)MURAKAMI Ei, “The Opium Trade and the Transformation of the Maritime Trade System in Pre-Opium War China : A Reexamination”, *Modern Asian Studies Review*,査読無,4巻,2013,pp.31-58
- (6)吉澤誠一郎、「ネメシス号の世界史」、『パブリック・ヒストリー』、査読無、10巻、2013年、1-13頁
- (7)OKAMOTO Takashi, “ Tycoon, Sovereignty, and Independence: International Relations Surrounding Modern Korea”, *Acta Asiatica : Bulletin of the Institute of Eastern Culture*, No.102, 査読有,2012,pp.89-106
- (8)MOTOMO Eiichi, “Anglo-Japanese Trademark Conflict in China and the Birth of the Chinese Trademark Law(1923),1906-1926, *East Asian History*, 査読有,37,2011,pp.9-26
- (9)岡本隆司、「日本の琉球併合と東アジア秩序の転換 - - 日清修好条規を中心に」、『東

北亞歴史論叢』、査読有、32号、2011年、63-103頁

(10)吉澤誠一郎、「近代中国における進化論受容の多様性」、『メトロポリタン史学』、査読無、7号、2011年、67-91頁

〔学会発表〕(計 11 件)

(1)MURAKAMI Ei, “Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy: Pirates along the Coast of Fujian during the Mid-Nineteenth century”, EHESS Seminar “Histoire du Japon moderne et contemporain : permanences et ruptures”, 2014年2月20日, EHESS (Paris)

(2)村上 衛、「カントンから開港場へ - 19世紀中葉、中国沿海の秩序再編」、日文研シンポジウム「日欧交流500年を前に 航路の形成と情報の拠点」、2013年9月27日、国際日本文化研究センター

(3)吉澤誠一郎、「近代中國的亜州主義：其特征與影響力」、「東亜共同體 傳統與現代的觀點」国際學術研討會、2013年11月27日、中央研究院近代史研究所

(4) 松重充浩、「世界史の中の満洲史とは何か」、社団法人国際善隣協会主催公開フォーラム：「新しい世代が見た満洲」研究シリーズ第2集、2013年9月19日、社団法人国際善隣協会ビル

(5) SHIBA Yoshinobu, “On Some Terms of Socio-economy in Historical China”, 北京大学中国古代史研究中心(招待講演)、2012年11月1日、中国：北京大学

(6) 岡本隆司、「モリソンパンフレットの世界」、東洋文庫東洋学講座(招待講演) 2012年11月30日、東洋文庫

(7)SHIROYAMA Tomoko, “Overview of The Intra-Asian Trade during the “Long 19th Century” :Formation and Dynamics of Regional Commodity Chains”, 16th World Economic History Congress, SessionH5 “The Intra-Asian Trade during the “Long 19thCentury” :Formation and Dynamics of Regional Commodity Chains”, 2012年7月11日, 南アフリカ：Stellenbosch University

(8) 村上衛、「晩清時期廈門英籍華人的經濟活動」、第4届國際漢学会議(招待講演) 2012年6月21日、台湾：中央研究院台湾史研究所

(9) 本野英一、「1920年代中国における在華外

国企業知的財産権保護体制の確立 日英企業商標を中心に」、2011年度東洋史研究会大会報告、2011年11月3日、京都大学

(10)岡本隆司、「“主権”之形成 - 20世紀初頭の中國與西藏、蒙古」、辛亥革命百周年記念「東亞史的辛亥革命」国際學術會議、2011年11月11日、ソウル大学

(11)斯波義信、“Japanese Study into the History of Maritime East Asia”, 第6回日韓学士院學術フォーラム(招待講演) 2011年9月27日、ソウル大学

〔図書〕(計 14 件)

(1)新村容子、『アヘン戦争の起源 - 黄爵滋と彼のネットワーク - 』、汲古書院、2014年、408頁

(2)松重充浩(共著)、『華北の発見』、東洋文庫論叢 76、2014年、分担箇所 103-121頁

(3)吉澤誠一郎(共著)、『華北の発見』、東洋文庫論叢 76、2014年、分担箇所 35-55頁

(4)松重充浩(共著) 劉傑・川島真編『対立と共存の歴史認識 日中関係 150年』、東京大学出版会、2013年、分担箇所 151-170頁

(5)村上衛(共著) 森時彦編『長江流域社会の歴史景観』、京都大学人文科学研究所附属現代中国センター、2013年、分担箇所 81-101頁

(6)村上衛(共著)、『アジアからみたグローバルヒストリー - 「長期の 18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』、ミネルヴァ書房、2013年、分担箇所 172-193頁

(7)SHIBA Yoshinobu (共著), *The Economy of Lower Yangzi Delta in Late Imperial China*, 2013, Routledge, London & New York, 分担箇所 pp.149-207

(8)本野英一(共著)、『中国の市場秩序：17世紀から20世紀前半を中心に』、慶応義塾大学出版、2013年、分担箇所 203-225頁

(9)松重充浩(共編)、『二〇世紀満洲歴史事典』、吉川弘文館、2012年、812頁

(10)岡本隆司、『ラザフォード・オルコック』、ウェッジ選書、2012年、252頁

(11)岡本隆司(共著)、『近代東アジアにおける翻訳概念の展開』、京都大学人文科学研究所、2013年、分担箇所 185-215頁

(12)村上衛、『海の近代中国 福建人の活動とイギリス・清朝』、名古屋大学出版会、2013年、688頁

(13)斯波義信編、『モリソンパンフレットの世界』、東洋文庫論叢 75、2012年、161頁

(14)岡本隆司、『李鴻章』、岩波書店、2011年、236頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

特になし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新村 容子 (NIIMURA Yoko)
岡山大学・社会文化科学研究科・教授
研究者番号：80362945

(2) 研究分担者

斯波 義信 (SHIBA Yoshinobu)
東洋文庫・研究部・東洋文庫文庫長
研究者番号：00039950

矢吹 晋 (YABUKI Susumu)
東洋文庫・研究部・東洋文庫研究員
研究者番号：90106295

本野 英一 (MOTONO Eiichi)
早稲田大学・政経学部・教授
研究者番号:20183973

貴志 俊彦 (KISHI Toshihiko)
京都大学・地域研究統合情報センター・教授
研究者番号:10259567

松重 充浩 (MATSUSHIGE Mitsuhiro)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：00275380

城山 智子 (SHIROYAMA Tomoko)
一橋大学・経済学研究科 (研究院) ・教授
研究者番号：60281763

岡本 隆司 (OKAMOTO Takashi)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：70260742

吉澤誠一郎 (YOSHIZAWA Seiichiro)
東京大学・人文社会系研究所・准教授
研究者番号：80272615

村上 衛 (MURAKAMI Ei)
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：50346053

(3) 連携研究者

濱下武志 (HAMASHITA Takeshi)
東洋文庫・研究部・研究部長
研究者番号：90126368

(4) 研究協力者

山村義照 (YAMAMURA Yoshiteru)
東洋文庫図書部複写係